



一人でも入れる組合

# ユニオン神奈川

No. 126

2021年5月14日

発行：日本労働組合総連合会神奈川県連合会  
連合ユニオン神奈川事務局

〒231-0023

横浜市中区山下町24-1 ワークピア 4F

TEL:045-211-1133 FAX:045-201-8866

(相談ダイヤル) 0120-154-052

## コロナ禍の第92回メーデー大会

「第92回かながわ中央メーデー」は、4月29日（木・祝）から5月14日（金）までの期間、WEB上に会場を設置し開催された。例年、臨港パークに集まり、デモや式典、子どもの向けのイベントなど家族連れで大勢の人が集まり「労働者の日」を祝った。

さて、そのような「メーデー」、その意味は、また、どのようにして「労働者の日」となったのか、さらに日本のメーデーの歴史をあらためて見直した。

### メーデーの歴史

5月1日のメーデーは、ヨーロッパでは夏の到来を祝う「五月祭」の日、夏の収穫を祈る。イギリスではメイポールと呼ばれる柱を立て周りで踊ったり、お祭りの女王を選んだりした。そのメーデーが「労働者の日」になったのは、1886年5月1日、現在のアメリカ労働総同盟（AFL）が、シカゴを中心に「8時間労働」を求めてストライキを行った。これが「労働者の日」としてのメーデーの起源となった。当

時、1日12時間から14時間労働が当たり前で「第1の8時間は仕事のため

に、第2の8時間は休息のために、そして残りの8時間は好きなことのために」というスローガンのもとに行われた。8時間労働は実現しなかったが、その後も5月1日のストライキは続き、1890年にはアメリカに合わせてヨーロッパなどでもストライキが行われ、これが第1回国際メーデーとなった。

### 日本のメーデー

日本では、1905年

（明治38年）平民社の主催で開かれた茶話会がメーデーの先駆けと言われている。その後、戦後恐慌時の1920年5月2日、上野公園で大日本労働総同盟主催による「第1回メーデー」が行われ、およそ1万人が参加、「8時間労働制の実施」「失業の防止」「最低賃金法の制定」などを訴えた。その翌年からメーデーの開催は5月1日となった。

しかし、1936年、2・26事件が起きて東京に戒厳令が出されたことで開催が禁止され、以降、終戦まで開かれることはなかった。

第2次世界大戦敗戦翌年の1946年（昭和21年）「第17回メーデー」が11年ぶりに開催された。この時のスローガンは「働けるだけ喰わせる」であった。戦後の厳しい状況を反映しており、別名「食糧メーデー」とも

呼ばれている。参加者は全国で100万人、盛大に開催された。また、高度成長期には総評、同盟などの共催で「統一メーデー」として開催が続けられた。しかし、日本が経済的に豊かになったこともあり、労働組合の活動に積極的に参加する人が減ってきたこと、さらに5月1日はゴールデンウィークの谷間にあることから、参加者も少なくなり、1989年以降、統一メーデーは開かれていない。（裏面へ）





現在、日本最大規模の労働組合「連合」が、ゴールデンウィークを避けて4月の最後の土曜日や昭和の日（4月29日）に開催している。（非連合系は5月1日に開催）

メーデーと似た労働組合の取り組みに「春闘」がある。これは毎年春に賃金の引き上げや労働環境の改善を求め、企業を超越して団結し、同じ時期に会社側と交渉することによって大きな成果を得るための取り組みとすれば、メーデーは労働組合の活動を象徴する取り組みと言える。

2020年、1000年目を迎えた連合のメーデーは、コロナ下でオンラインによるメーデー大会となった。また、飛沫を防ぐため、例年の「がんばろう三唱」をやめ声を出さずにタオルや旗を掲げて画面越しに全国の組合員とつながった。

## メーデーは続く

2021年、今年もコロナ下のメーデー大会となり、WEBやオンラインによる開催となった。労働組合は、変化していく社会環境に柔軟に対応し、誰もが安心して働き、暮らすことのできる社会の実現を求めて、これからも活動して行く。



## 2021年度 ユニオン学習会

2021年度「第1回連合ユニオン学習会」は、4月16日（金）、ワークピア横浜で開催した。コロナ感染拡大の続く中、組合員やサポーターが20名参加した。テーマは「身近なリスクと保障について」とし、こくみん共済coop（全労済から名称変更） 神奈川推進本部

事業推進部広域推進課推進係 保坂匠係長を講師にお願いした。冒頭、こくみん共済coop神奈川推進本部 金澤秀人次長から挨拶があり、講義となった。

こくみん共済coopは、**こくみん**みんなのための、**共済** というたすけあいの仕組みを提供する**coop**（**共同組合**）を表す。戦後間もない頃はケガや病気、火災などにあっても保険に入ることのできない人がほとんどであった。そのような時代に、組合員相互の助けあいによる組合員と家族の生活向上と安心を図ることを実現するために、労働組合の共済活動を全国レベルの組織として結成。労働者自主福祉運動としたのが始まりであると、成り立ちについて説明があった。

次に保障について。地震や台風、大雨による風水害などの自然災害へに備えやライフステージからみれば保障「生活保障設計の考え方」について説明があった。地震や台風は忘れた頃にやってくると言われる。また、いつかは自分も介護する側からされる側に、そのような身近なリスクや人生の時々にあわせた共済制度を保障と言う形でサポートしている。医療保障、介護保障、住まいの保障など私たちの日常生活と暮らしの安全について説明があった。

参加者からは、「東日本大震災などの災害にどのように対応されたのか」「個人加盟から団体加盟へ連携していききたいが、どうつなげていくのか」「80歳でも入れる保険はあるのか」などの質問が出された。

「東日本大震災では、実際に現場へ行き調査し、迅速な対応を行った。また、個人加盟から団体加盟への取り組みについて

は、それぞれの事情もあるのでユニオンと連携しながら進めていきたい。また、加入条件もあるが、80歳になっても加入できる保険は用意している」との回答があった。

コロナ下での活動となり制限もあるが、組合員に寄り添った共済活動を続けていくと決意が示され、終了となった。



コロナ対策の取られた学習会の様子

## お知らせ

ユニオン歴史散策開催

日時 6月26日（土）

場所 横浜歴史博物館他

詳細は別途連絡